

第4回 まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事要旨

日時	平成27年12月25日(金) 10時00分～12時00分	
場所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室	
出席者	<p>【本部長】 山下 史守朗 小牧市長</p> <p>【委員】 安藤 仁 名古屋鉄道(株) グループ統括本部 事業企画部 企画担当部長 伊藤 博美 名古屋経済大学 人間生活科学部 准教授 若林 宏保 (株)電通 電通 abic プロジェクトリーダー 桑原 かおり (株)ゲイン メナージュケリー編集長 田中 理絵 ママラボ代表 坪井 俊和 大城児童館 館長 土方 裕美 アレルギーっ子のつどい クリスマスローズ代表 小塚 智也 こども未来部長</p> <p>【コーディネータ】 石田 洋一 (株)電通コンサルティング</p> <p>【事務局】 伊木 利彦 市長公室長 舟橋 逸喜 市長公室次長 宇野 嘉高 市長公室 秘書政策課長 舟橋 朋昭 市長公室 秘書政策課係長</p>	
欠席者	なし	
傍聴者	8名	
配布資料	資料1	委員名簿、配席表
	資料2	小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案 概要
	資料3	小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の体系における新旧対照表
	資料4	小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案
	参考資料1	小牧市まち・ひと・しごと創成総合戦略素案における施策および KPI 一覧表
	参考資料2	小牧市人口ビジョン案

■主な内容

1. 開会

(1) 市長あいさつ

第3回戦略会議において、「小牧市は子育て施策は充実しているが、知らない人が多いため外に向けて発信していくことが必要」、「子育てサービスが多様化しているので、ワンストップコン

シェルジュのような機能を備えた、えほん図書館と一体的な児童館があるとよい」、「ブランド戦略をシーンごとにビジュアルで示した方がわかりやすい」、「保育園では差がつきにくいから、小学生になったら、小牧市がよいと思われる施策があるといい」などのご意見をいただき有意義だった。

これまでの議論を踏まえ、本日は総合戦略骨子案の体系を見直した総合戦略素案を示すため、活発な議論をお願いしたい。

2. 議題

(1) 小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

■基本目標1について

【土方委員】

・「創業支援セミナーの受講者のうち、実際に起業（創業）した人数」が10人というのが、多いか少ないかわからない。セミナーを何回開催するのかによって、人数が変わるのではないか。

【若林委員】

・起業支援について、社会的課題を背景に、こういった人に起業をして欲しいなど、小牧らしさを出すようなテーマ性があった方がよいのではないか。

【坪井委員】

・トップ産業だけでなく、小牧市を支える人づくりに参加した人数や研修に参加した人数なども指標になるのではないか。

【若林委員】

・人のつながりやマッチングによりビジネスが生まれることが多い。マッチングが生み出されるような施策があるといい。

【山下本部長】

・施策レベルで考える必要があるので、いったん引き取り議論していく。

■基本目標2について

【田中委員】

・今後、若年人口が減るため、出生数を増やすことは難しいのではないか。

・子育てと仕事の両立支援において、「待機児童数」という指標もいいが、希望通りに就労できているのか、という視点の指標も必要ではないか。

【坪井委員】

・「学校が楽しいと思うこどもの割合」の基準値が90.8%であるが、この数値をさらに上げていくことはできるのか。

・コマキッズドリームプロジェクトについても、「夢育み事業への参加人数」だけでなく、多様なチャレンジを生み出す事業の数を指標として設定してはどうか。

【山下本部長】

・どういう指標をとってよいのか非常に迷うところ。仕事との両立はサポートしてもらえているのかというアンケート調査結果ぐらいしか出せないのではないか。

【坪井委員】

・育児休暇取得率も指標として考えられると思う。

【伊藤委員】

・基本目標2全体が、「安心して子育てができるまちと思う子育て世代の割合」という指標に集約されると思う。

・待機児童数0を目指して小牧市が何に取り組んでいるかが重要である。

【山下本部長】

・みなみ保育園を設置し180人の枠を増やしたが、待機児童が0にはならなかった。対策をしても待機児童問題が解決するわけではない。

【伊藤委員】

・子どもを預けられる安心感があるかないかが住む理由になるため、「小牧市だから預けられる」という点が重要なのではないか。

【安藤委員】

・待機児童は、量的拡大を行うとさらに増える。このような状況は良い事であると周囲が認識するような広報戦略が必要ではないか。待機児童ゼロに向けて取り組んでいることをしっかりと発信し、さらにその上を目指していく好循環が重要である。

【土方委員】

・スポーツや職業体験などを通して、小牧市で仕事をするのが楽しそうだった割合などの指標があってもいい。

・貧困な子どもにもチャンスがあるような取組みがあるといい。

【小塚委員】

・「夢育み事業に参加した子どもの数」と一括りにしているが、この事業の中にはいろいろな取組み内容があるため、表現方法を工夫してもいいかもしれない。

【山下本部長】

・どんな家庭環境であっても支援できればと思っているが、なかなか貧困家庭に絞って施策を行うことは難しい。

・少子化対策には「経済的支援」、「仕事との両立」、「孤独にならない相談体制の充実」の3本柱がある。経済的支援はいろいろな施策を行っているが、それについての記載がないので、追加した方がよい。

【若林委員】

・市内の子どもだけでなく、市外の子どもも交流できる場を作り、子どもの交流を入りに、家族で小牧市に引っ越してきてもらう施策があるといい。

【伊藤委員】

・職業体験は、体験した後の振り返りがいい。それを一歩進めて、子どもから発信できるような

形になるといい。

- ・放課後児童クラブにおいて、地域のNPOなどが学習支援できるようになるといい。

【田中委員】

・コマキッズドリームプロジェクトにおいて、サポーターの数といった人材育成の観点での指標があってもいい。

■基本目標3について

【安藤委員】

・「若年世代が集まる魅力あるまちの創出」に対して、「名鉄小牧線沿線居住率」という指標は分かりにくい。コンパクトシティは少子高齢化に対応したまちづくりである。

【山下本部長】

・若い人達が小牧の魅力を自慢できるような街にしたい。コンパクトシティにおいて、魅力あるまちづくり、活力やにぎわい創出ということを考えると、核となるのは各駅になると思うが、「若年世代が住みやすい住宅地の創出」については、名鉄小牧線沿線のみならず、桃花台なども含めたもっと広い視点でもいいと思う。

・総合戦略は人口増加を目的とした計画であるが、ライフステージにあった居住環境をいかに適切に提供していくか、住みたいと思われるまちをどう作っていくかを考えるべき。

【安藤委員】

・そうであるならば、「住宅地」ではなくて「住宅」の創出をすべきである。例えば、建替えの補助金などにより、既存の住宅地の中でリニューアルを促進し、ライフステージにあった住宅・住まいをいかに政策的に供給できるかを考えた方がよい。

【坪井委員】

・既に小牧に住んでいる人にとっても、住んでいて良かったと思われることが大事である。そのためにも、沿線だけではなく、各々の場所が充実していくことが必要である。

【田中委員】

・都市的なコンパクトシティの暮らしと自然体験とを繋ぐ導線があるとよい。そのため、指標としては、名鉄小牧線沿線居住率でよいと思う。

【伊藤委員】

・小牧市の自治会加入率の状況はどうか。施策2は重要なことであり、何かあった時に助けを必要としている人を助けられる施策が重要であり、そこに若い人たちが入っていければ良い。

【山下本部長】

・小牧市は128区あり、自治会加入率は82.9%と低くないが、年々つながりが希薄化している。

■基本4について

【若林委員】

・ロゴマークの認知度は市民だけでなく、市外の人々の認知度についても把握していくことが重要

である。

【田中委員】

・施策によって5割を7割に上げることはできても、8割を9割に上げるのは困難なので、施策によって改善が認められるような指標にした方がよい。

【安藤委員】

・基本目標4に、魅力を伝える項目がない。地域ブランド戦略は、インナーブランディングであり、アウターブランディングの施策が含まれていないのではないか。

【山下本部長】

・施策1は、インナーブランディングだけでなく、アウターブランディングも含まれているが、確かに、魅力を外に発信していく施策がない。

【安藤委員】

・基本目標1から3の「しごと」、「ひと」、「まち」で議論した情報を基本目標4において、市の魅力として外に発信していくことを打ち出した方がいい。

【坪井委員】

・発信もいいが、発掘もして欲しい。市内には、いろいろな情報を持っている人が多いため、発掘しながら発信していくことも重要である。

【桑原委員】

・市外の人が抱く小牧市に対するイメージの変化を数値化するのもいい。

【安藤委員】

・「定住につながるきっかけづくり」ではなく、その後のフォローもしっかり行っていくことを示した「定住の仕組みづくり」の方がいい。

【若林委員】

・ブランドについての指標はシンプルかつ包括的なものを置いた方がいい。

3. 【閉会】